

# 平成 18 年度 教師海外研修（派遣国：マレーシア）実践報告書

1. タイトル 地球のために私たちにできること～マレーシアから考える～

2. 氏名 かげやま さとえ  
蔭山 怜恵

学校名 奈良市立西大寺北小学校 担当教科 全教科

3. 実践教科 生活、道徳、各教科／総合的な学習の時間 時間数 7時間／1時間

4. 対象生徒・学年 小学校1年生／小学校6年生

対象人数 1年生3学級（88名）／6年生2学級（56名）

## 5. カリキュラム案

### （1）実践の目的

#### ○1年生

- ・限定された身近な地域からより広い世界へ目を向けさせ、自分たちの住んでいるところが、地球という星にあるさまざまな国のひとつであり、同じようにいろいろな文化を持つ国がたくさんあることを知る。
- ・世界の中のひとつの国マレーシアを紹介しながら、日本とは違う生活や文化についてモノや写真を通して、また、体験することによって親しむ。
- ・日本とマレーシアのつながりを考え、そこで起こっている熱帯雨林の破壊という現状が私たちの生活とつながっていることを知り、自分たちにできることを考えて行動していく姿勢を養う。

#### ○6年生

- ・総合的な学習（国際理解「異文化にふれよう」）単元の導入として行う。モノや写真を通して外国の文化に親しみ、日本とのちがいや共通点、つながりについて考える。

### （2）授業の構成案

#### ○1年生

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：世界を知ろう！ ねらい：世界にはいろいろな国があることを知って仲良くしようという心情を育む。	・スライド説明（世界について） ・動物－国名あてクイズ ・友だち・あいさつ－国名あてクイズ ・世界のあいさつゲーム	・バーチャル地球儀ソフト ・動物、世界の子どもの顔写真 ・世界のあいさつ集 ・パワーポイント
2, 3 限目 テーマ：スラムダタン マレーシア！ ねらい：日本とは違うマレーシアの生活・文化に親しむ。	・マレー語であいさつ ・マレーシアボックス ・スライド説明 （マレーシアの生活・文化について）	・バーチャル地球儀ソフト ・オランウータンのぬいぐるみ ・マレーシアで収集したモノや写真 ・パワーポイント・ワークシート
4, 5 限目 テーマ：私たちとのつながり～熱帯雨林から～ ねらい：熱帯雨林の重要性和、私たちの生活はマレーシア（世界）とつながっていることを知る。	・スライド説明 （熱帯雨林の様子、役割、重要性について） ・身近にある熱帯雨林のものさがし	・オランウータンのぬいぐるみ ・熱帯雨林の動植物の写真 ・パワーポイント・ワークシート
6, 7 限目 テーマ：私たちにできること ねらい：マレーシアをはじめとする世界の環境破壊の現状を知り、自分たちにできることを考えて行動していく姿勢を養う。	・スライド説明 （熱帯雨林破壊、私たちにできること、地球からのメッセージ） ・自分たちにできることを考え、取り組むものを決めて用紙に記入。	・オランウータンのぬいぐるみ ・絵本（「Kojiu and the Banana tree in the Lower Kinabatangan」、「ハチドリのひとつづく」、「地球の子どものたちへ」） ・パワーポイント・青画用紙

○6年生

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目 テーマ：スラムダタン マレーシア！ ねらい：マレーシアの生活・文化に親しみ、日本とのちがいや共通点、つながりを考える。	・マレー語であいさつ ・マレーシアボックス ・パワーポイント説明（マレーシアの生活・文化について）	・バーチャル地球儀ソフト ・オランウータンのぬいぐるみ ・マレーシアで収集したモノや写真 ・パワーポイント・ワークシート

6. 授業実践の詳細

○1年生

1限目：「世界を知ろう！」

- ①バーチャル地球儀ソフトによる説明
- ②動物－国名あてクイズ
- ③友だち－国名あてクイズ
- ④世界のあいさつゲーム

<児童の反応>

バーチャル地球儀ソフトで、宇宙からズームで学校の運動場まで見ることができるととても驚いていた。動物クイズではよく知っている動物を使うことで、意欲的にクイズに答えて世界を感じていた。初めて知る外国のあいさつは、クイズやゲームをすることで楽しみながら親しめたようだ。

<感想>・学校からうちゅうへとんでいってちきゅうが見えてすごかったよ。・うちゅうからちきゅうを見たのはじめてでびっくりしました。だってわたしのいえや学校が見えるなんておもってもみなかった。・ちきゅうはあおくてとってもきれいだったよ。・ぼくのしってるどうぶつがでてきてうれしかった、もっともっとやりたかったです。・ぜんぶ日本にいますとおもっていたけど、ほかのくからきてたからびっくりしたよ。・こんなにもちがうことばがあっておもしろかった。・中ごくのあいさつがおもしろくて、アルゼンチンのあいさつがむずかしいなあっておもいました。でもいえるようになったよ。・どんどんちがうせかゝいきていくらしいです。

*世界の 動物・友だち・あいさつ クイズ			
パンダ	: 中国	: ニーハオ!	(中国語)
オランウータン	: マレーシア	: スラムダタン!	(マレーシア語)
コアラ	: オーストラリア	: ヘロー!	(英語)
キリン	: ケニア	: ジャンボ!	(スワヒリ語)
ハチドリ	: アルゼンチン	: ブエナス・タルデス!	(スペイン語)
ニホンザル	: 日本	: こんにちは!	(日本語)

2, 3限目：「スラムダタン マレーシア！」

- ①マレーシアボックス+映像・写真などによる説明

- ・多様な文化（民族、宗教、衣装、食べ物、都会と田舎など）：三民族の顔つき・食事・衣装などの写真、トドゥン、サロン、ソンコ、ハラルマーク、お祈りの部屋、メッカ方向を指す矢印、トイレ、ツインタワー、市場など
- ・遊び：セパタクロ、マレー凧
- ・豊かな自然：ひるよけソックス、様々な動植物
- ・自然を利用した暮らし：耳かき用の羽、ダガット村の生活の様子

\*下線つきは、マレーシアボックスで使用したモノ

- ②体験コーナー

民族衣装、オランウータンの友だち、ラササヤンの歌、セパタクロ、楽器、遊び道具などなど。

<児童の反応>

マレーシアボックスでは実物に触れながら、何に使うものか想像をめぐらせていろいろな意見を出し、回答・説明も興味深そうに聞いていた。オランウータンのぬいぐるみを、マレーシアから来た友だちとキャラクター化し紹介したところ、予想以上に子どもたちは親近感を持ち、今でも休み時間に一緒に遊んでいる。民族衣装、楽器、遊び道具などの実物の体験も楽しかったようで、五感を使ってフルにマレーシアを感じてくれたようだ。

<感想>・なんでぶたにくをたべちゃいけないんだろう。・アラジンみたいなたてものがあったよ。・マレーシアには、たくさんはどうぶつやむしがいるんだな、大きくなったらいつてみたい。・せんせいのふくもきれいでドレスみたいでかわいかった。・きょうマレーシアからコジュくんがきてくれてうれしかったよ。いっしょにあそんでたのしかったよ。・ぼうしはいれものとおもっていたよ。・マフラーとおもったけど、あたまにまくやつなんておもわなかった。それにふしぎないいにおいがしたよ。・せかゝりにこんなものがあるなんてしらなかったよ。

4, 5限目：「私たちとのつながり～熱帯雨林から～」

- ①熱帯雨林とは？：スライドを見ながらワークシートをうめる。

- ・生き物の家：地球の生物の半分以上が住む。→多様な動植物、動物の死骸やゾウの足跡・フン
- ・私たちの生活に必要なもの：木→ダガット村の家、船、工芸品→果物、木の実などは食料
- ・自然のダム：木の根が水をため、土をつかんでいるため、洪水・土砂崩れなどを防ぐ。
- ・地球のクーラー、酸素ポンペ：二酸化炭素を吸って地球の温度調節、生き物に必要な酸素を出す

## ②マレーシアと私たちのつながり

### i マレーシアで見つけた日本のもの

・日本人墓地、日本製冷凍食品、日本のアニメやマンガ、日本車など

### ii 身近にあるマレーシアのものさがし：教室の中の熱帯雨林から来ているものを探す。

・木材：みんなの机やいすの板、黒板、木→紙：ノート、プリントなどの紙

・パームオイル：身の回りの生活用品のいたるところに使われている。

### <児童の反応>

仲良くなったオランウータンのコジュ君のふるさとと紹介することで、少々難しいかと思われた熱帯雨林の役割についてもよく聴いてくれた。動物は足跡、フンや死骸なども見せると、「うわ〜っ!」という反応でよりリアルな形で生物のつながりを感じてくれたかと思う。身近な教室の中にもマレーシアのものがあることに驚いていた。

<感想>・大きなはっぱときょ大ダンゴムシがすごかったよ。・テングザルがおもしろくて、ゾウの足あとではかすぎっておもいました。・大きなイノシシがワニにたべられていてびっくりしたよ。・コジュくんがすんでいるところはねったい雨林ということ、かみが木でできていることをはじめてしまったよ。・コジュくんのふるさとを見れてたのしかったし、ずっとおぼえときたいです。・コジュくんのふるさとのねったい雨林はすごく大せつだとおもったよ。なくなってしまう方がいいなとおもいました。・ねったい雨林がつぶれるとどうぶつがしんじやう、かわいそうだよ。・木でできたもの 13 こも見つけたよ。・学校にもマレーシアのものがあるよ。・ねったい雨林の木が日本におくられてきて、そしてつくえやいすやかみがあるんだよ。

## 6, 7 限目：「私たちにできること」

①熱帯雨林破壊の現状：木が切られ動物たちのすみかが失われている現状と、環境破壊が進んでいることを知る。

②私たちにできること：「はちどりのひとしづく」の話を読み、自分たちにできることをひとつだけ考えて紙に書く。

SOS を発する地球からのメッセージを聞く。

### <児童の反応>

熱帯雨林の破壊を伝える糸口として絵本を使い、コジュ君のお話として紹介することで、子どもたちにもより身近な問題として感じてくれたようだ。熱帯雨林をはじめとする地球の資源を大事にして、地球を守るために、自分にできること（自分のひとしづく）を一人ひとつ考えて実践しようと真剣に考えていた。しかし、自分たちの行動が熱帯雨林を壊すか守るかという、自分とのつながりを全員がつかむことは難しかったようだ。

<感想>・コジュくんのおはなしで、コジュくんは木のうえにしかすめないのに、木をきるから、いえもこわされて、おかあさんともはぐれてかわいそうでした。・コジュくんはさびしかったとおもいます。・ねったい雨林をきるはなしをきいてかなしくなりました。・ねったい雨林の木をたくさんきっているのは日本でも、ぼくはそんな人にはなりません。・ねったい雨林の木がきられてほとんどのどうぶつがしぬなんて、ぼくがオランウータンだったらこわくてたまりません。・コジュくんをたすけたいとおもってなみだが出ました。・おかあさんとはぐれたコジュくんがいける学校があるなんてすごかった。・木をあんまりきらないでっていうことをしらせないといけない。・木とかかみとかをむだづかいしないようにきをつけたいです。

## ○6年生

### 1 限目：「スラムダタン マレーシア！」

①マレーシアボックス+映像・写真などによる説明

・多様な文化（民族、宗教、衣装、食べ物、都会と田舎など）：マレーシアの国旗・地図、三民族の顔つき・食事・衣装、トイレ、ツインタワー、市場などの写真

・イスラム教：ハラルマーク、お祈りの部屋、メッカの方向を指す矢印、トダウン、サロン、ソッコ

・遊び：(伝統的) セパタクロー、マレー侃、(現在) ドラえもんマレーシア語版 DVD 視聴

・豊かな自然：ひるよけソックス、様々な動植物の写真

・自然を利用した暮らし：耳かき用の羽、ダガット村の写真

・日本とのつながり：(日本から 過去) 軍票、日本人墓地、(日本から 現在) 日本食の冷凍食品、日本車、日本製のアニメやマンガなどの写真、(マレーシアから) 木材、パームオイル

### <児童の反応>

マレーシアボックスで、モノを実際に触りながらマレーシアのことに親しんでいた。中身も1年生とは変えて、6年生の既習分野（歴史や工業、生物分野など）とも関連づけて回答・説明したため興味を持って聞いてくれて、自分たちとの違いや共通点、つながりなどにも思いを馳せられたように思う。

<感想>・マレーシアのことは全然知らなかったけど、実際に自分で見てさわって考えられたのでとてもおもしろかった。・豚肉食べてはいけないマークは難しかったけど、食べ物や洋服にも宗教の影響を受けているなんてびっくりだ。・一日五回もおいのりするのは大

\*下線つきは、  
マレーシアボックスで  
使用したモノ

変だ、ぼくなら忘れてしまう。・食べ物が増えているということが自分のくらしとちがうと思った。マレーシアの道具でよかったのは、マレーシアの特徴を生かしていること。自然が多いから木や羽などを使っていた。・マレーシアに行ったことがあり都会のイメージだったけど、ジャングルがあってあんな大きな虫がいるとは知らなかったからびっくりした。・マレーシアはずっと暑いから植物とか虫とかが大きくなるんだ。・すごいと思ったのは、ドラえもんがマレーシアでも知られていること。のび太くんが外国語ペラペラですごかった。・マンゴーのグミはいいにおいがして食べたかった。・マレーシアと日本はけっこう関係が深いんだと思った。・マレーシアのものや写真を見て、実際に行ってみたくなった。先生、「トゥリマカシ」！！・また他の国のことも知りたいです。

## 7. 所感・反省点・改善策

できるだけ子どもたちの五感を通してマレーシアの生活・文化に触れてほしいと思ったので、マレーシアボックスでは、モノを通して、見て、触って、嗅いで、聞いて、外国のものに親しめるようにし、授業後も子どもたちがマレーシアグッズに自由に手に取れるようにしておいて、日常生活の中で自然に触れられるようにした。また、教材化するにあたり、1年生では国語の教材に出てくるハチドリを使ったり、6年生では社会の歴史分野に関連付けて軍票を入れたりするなどして、少しでも他教科とリンクするようにした。おかげで、世界のことに触れるのが初めての子がほとんどで発達段階から世界観もまだ狭い1年生であったが、予想以上に喜んで外国に親しんでいったし、6年生もより興味を持って聞いてくれたように思う。1年生ではさらに、オランウータンのぬいぐるみを、マレーシアからやってきた友だちとして仲間にするようにして、より親しみを持ってくれた。授業後も、歌を歌ったり、伝えられなかった話をしたり、モノを見せたりしていると、子どもたちにも知らなかった外国のことをずっと受け入れる下地ができたように感じる。

ただ、自分とのつながりというテーマについては、自分たちの生活と地球とのつながりを十分感じてもらえたかどうかという、やはり十分とは言いがたい。自分自身の伝え方も含め、分かりやすく伝えるためにもっと工夫が必要だと思った。しかし、1年生は彼らなりに感じてくれた部分があったようで、自分にできることを一生懸命考えてくれた。授業後も、ウツボカズラやオランウータンのぬいぐるみなどにより、熱帯雨林について想いを馳せているよう子もいる。たとえば、机に落書きをしていた友だちに「そんなことをしたらコジュ君の住む熱帯雨林がなくなっちゃうからやめよう。」との声や、懇談の折に保護者から「マレーシア語の歌を喜んで歌っているし、部屋の電気を消すようになってびっくりしています。」との声も聞かれて、とてもうれしかった。

全てを伝えることができなかったが、心の片隅にでも私たちが意識を変えて行動することで、地球とそこに住む大切な仲間たちを守ることができる、という気持ちを持ち続けていってほしいと思う。そして、楽しそうにマレーシアのモノで遊び、世界の他の国のことも知りたいと世界地図とにらめっこし、オランウータンのコジュ君を仲良しの友だちと思ってきている子どもたちを見て、これから先、自分とは違う文化を持つ人と出会っても仲良くできる人に、それから人に、動物に、地球にやさしい人になってほしいと心から願っている。

## 8. 使用した教材、授業の様子（1年生）

### 1 限目：「世界を知ろう！」

- ①動物－国名あてクイズ
- ②友だち・あいさつ－国名あてクイズ

①



パンダ



パンダ  
ちゅうごく

②



マレーシア  
スラマツダタン

- ③マレーシアボックスのモノを手にとって考える子どもたち
- ④正解（トダウンの写真）
- ⑤トダウンの巻き方を説明
- ⑥オランウータンのコジュ君

### 2, 3 限目：「スラマツダタン マレーシア！」

③



④



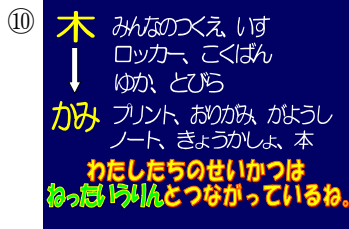
⑤



⑥



4, 5限目：「私たちとのつながり～熱帯雨林から～」



⑦マレーシアの熱帯雨林にいた  
巨大ダンゴムシ、動物  
⑧動物の足跡、フン  
(見えなくても動物はいる)  
⑨熱帯雨林のはたらき  
⑩教室にある熱帯雨林のものさがし

6, 7限目：「私たちにできること」



⑪熱帯雨林の木が切られて、オランウータンのコジュ君が困っている  
⑫私たちとのつながり  
⑬子どもたちが書いた“ひとしずく” (私にできること)

9. 参考資料・引用文献

○1年生

1限目：「世界を知ろう！」

- ・「はじめてのせかいちずちょう なるほどkids」昭文社 2006年
- ・「小学館の図鑑NEO 動物」八巻孝夫 小学館 2002年
- ・「世界がもし100人の村だったら 4 ～子ども編～」池田香代子 マガジンハウス 2006年
- ・「世界のことばあそびえほん」戸田やすし・戸田幸四郎 戸田デザイン研究所 1990年

2, 3限目、○6年生1限目：「スラムダタン マレーシア！」

- ・「ドレミファランド」教育研究社
- ・「マレーシアの子どもたち (世界の子どもたちはいま9)」西村佐二 学習研究社 2001年
- ・「世界各地のくらし5 マレーシアのくらし」渡辺一夫 ポプラ社 1995年

4, 5限目：「私たちとのつながり～熱帯雨林から～」

- ・事前研修資料
- ・「ecoborneo ボルネオ・ネイチャーブック」(別冊)山と溪谷社 2006年
- ・「わたしたちの地球を守ろう② 熱帯雨林を救おう」M,バンクス 偕成社 1991年

6, 7限目：「私たちにできること」

- ・「Kojiu and the Banana tree in the Lower Kinabatangan」Ruth Lim WWF - Malaysia 2004
- ・「ハチドリの一としずく いま、私にできること」辻信一 光文社 2005年
- ・「世界と地球の困った現実」日本国際飢餓対策機構 明石書店 2003年
- ・「地球では1秒間にサッカー場1面分の緑が消えている」田中章義 マガジンハウス 2004年
- ・「子どもたちが地球を救う50の方法」アース・ワークスグループ ブロンズ新社 1990年
- ・「地球のこどもたちへ」シム・シメール 小学館 1993年